

もろともに

NO5

「7月 校長講話」

7月25日(火)

【箕輪北小学校の誕生 その2】



【体育館が建つ前のゆりの木】

平成13年5月

こんな苦労を重ねながら、いよいよ地域の方が長い間願ってきた学校「北校」がスタートできるようになりました。はじめは、1年生2年生3年生だけの今で言う低学年の皆さんだけが通う学校でした。高学年の、4年生5年生6年生は、今の中部小にこれまでのように通っていました。ですから、学級の数は、今は19学級ありますが、当時は、全校で5学級しかありませんでした。1年は全員で71名で学級数は2学級、2年は全員が71名で学級は2学級、3年生は今では考えられない56人の1学級で、教室は、ぎゅうぎゅう状態でした。このときの3年生が6年生になるまでの4年間、北小の最上級生でした。

開校した北小ですが、この頃の北小は、教室はと言えば、2階建ての6教室だけでした。まだ、体育館はありませんでした。校庭もあるはありましたが、まるで「畑」と同じで、雨が降ると、ぐちゃぐちゃで水浸しになったそうです。

ですから、開校後も、3年後の独立開校をめざして、体育館や教室、校庭、庭などを増やしたり整備したりする工事が続いていました。校庭や庭は、地域の方や保護者の方が、もっこやトロッコを使って運び、時間をかけて作っていました。当時を振り返ると、子どもたちが勉強をしながら、学校の窓から見ると、保護者の方がたくさん働いていたことを覚えている人もいます。

このように、保護者の方は、子どもたちの教育のためにと、常に交代で学校に来ては、いろんな作業をやっていたそうです。

この門札を見てください。昭和25年「中箕輪小学校北校」、その3年後昭和28年には、北小に1年から6年までのすべての学年がそろい、独立開校「中箕輪北小学校」、そして、昭和30年の町村合併で、今の校名「箕輪北小学校」になりました。

「佐補ふきはらの ゆたかなる
土をひらきし みおやらの
恵みをうけし このわれら
光あかるき 校庭に
仲よくきよく たくましく
きたえはげまん もろともに」

最後になります。昭和34年にできた校歌の歌詞二番をよく見て下さい。北小の誕生その1、その2と、話してきたように、補佐露原の地で、地域の皆様の「ゆたかなる 土をひらきし みおやらの 恵みをうけ」て、今、ここ北小に学ぶことができる私たちです。地域の方の熱い願いが作った学校、それが箕輪北小学校なのです。

このいきさつを知り、地域の方が北小を誇り、大事にしてくださっている意味を改めて知ることができました。そして今、私も、地域の方の思いように、ここにこうして建つ箕輪北小学校を誇りに思っています。

この地に学校を建てて下さった地域の皆様に 感謝をしながら ふるさとを大切に、学校目標のように、「学び」「きたえ」「つとめ」、「もろともに」ますますいい学校にしていましましょう。